

アフリカ探検家にちなむ “スタンリー風” ステーキ

一八七一年初頭、ニューヨーク・ヘラルド社は、五年前から消息を絶っていたアフリカ探検家（ヴィクトリア瀑布の発見という実績をあげていた）D・リヴィングストン博士の行方を探ることを、売れっ子のフリー新聞記者H・Mスタンリーに依頼した。

スタンリーは一八四二年イギリスに生まれ、六二年にアメリカの市民権を得たのち新聞通信員となった。

トルコ、アフリカ、スペインなどから記事を送り、その文才の豊かさで好評を得ていた。

一八七一年三月、アフリカに向けて出発したスタンリーは、博士死去の噂にふりまわされながらも足跡をおいかけて、八か月後の十一月十日、タンガニーカ湖（バイカル湖に次いで世界で二番目に深い、ザイルとタンザニア間の南北に細長い湖）東岸のウジージという町で、病床に伏せていたリヴィングストン博士と感激の邂逅を遂げた。

そのときの第一声は、「もしかして、あなたはリヴィングストン博士ですか」（Dr. Livingstone, I presume.）と伝えられて、その後、後に発表された手記『私はいかにしてリヴィングストン博士を見つけたか』は彼の名を高めた。



彼は博士とともに探検を続け、博士死後も調査を重ね、アフリカ探検の新時代をひらいた。一九四六年、二人の対面の場所にあるマンゴの木の下に会見記念石碑が建立された。

石碑は石片を二重に積み重ねたブロック式のもので、両名の名が、浮き彫りにされたアフリ

カの地図に刻まれている。

ところで、肉料理に “スタンリー風” と名付けられたものがある。

もちろんこの探検家にちなんだもので、ステーキにバナナのバター焼きを十字にのせ、その中央におろしたホースラディッシュをのせ、マディラ・ソースを注いだものをこう呼ぶ。

バナナがアフリカを象徴しているのだ。